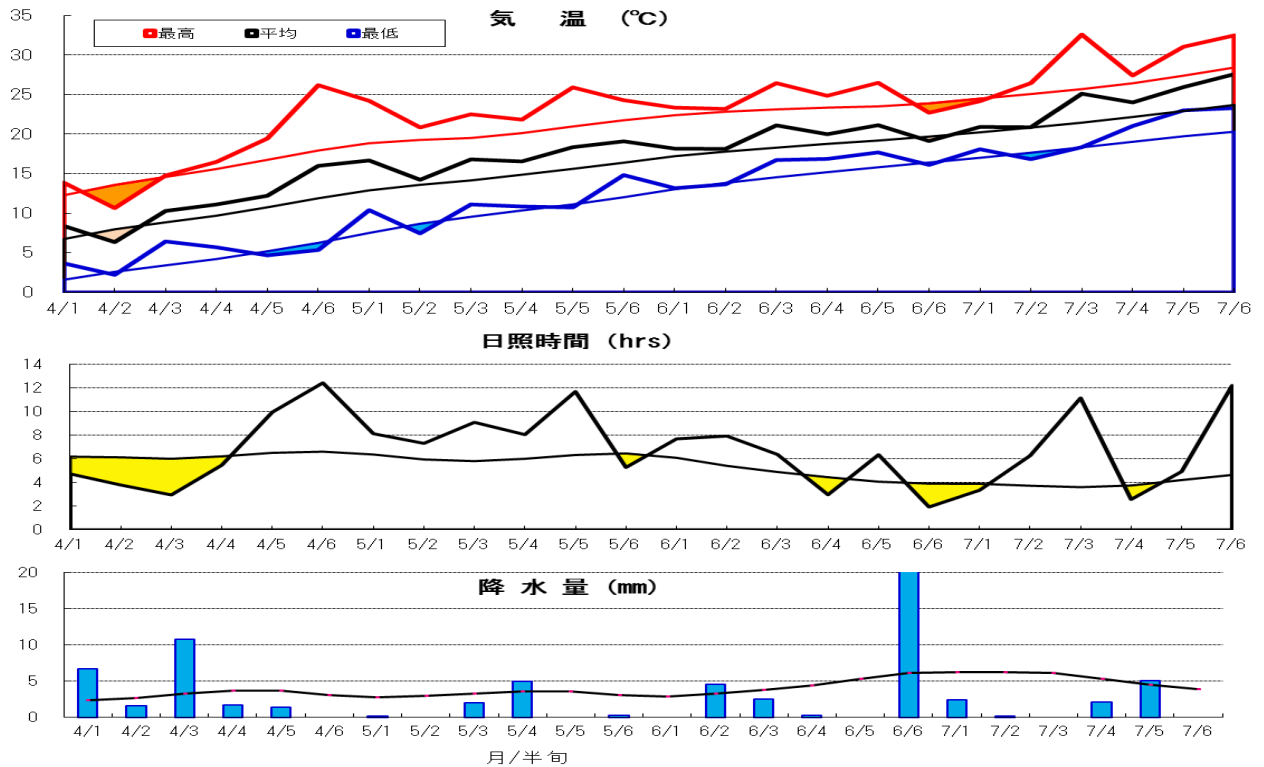


= 出穂は 7 月末と平年より 5~6 日進んでいる。 渇水注意!! =

1 気象経過と予想



- ・梅雨期間は 6 月 26 日～7 月 26 日で、平年より 12 日遅く梅雨入りし、1 日遅く明けた。
- ・梅雨入り後、平均気温は平年より 1~2°C 程高く、7 月中旬は 3.6°C も高かった。
- ・降水量は、平年比で 6 月が 90%，7 月中旬は 10% と少雨となっている。
- ・日照時間は、平年比で 6 月が 125%，7 月中旬は 200% とかなり多照となった。

(7月25日から8月24日の予想)

仙台管区气象台 H27. 7. 23 発表

[特に注意を要する事項]

- ・期間のはじめは、気温がかなり高くなる場所がある。

[1 か月と週の天候]

- ・天気は数日の周期で変わるが、平年に比べ晴れの日が少ない。
- ・1 か月の平均気温は高い確率 50%，降水量は平年並か多い確率ともに 40%，日照時間は平年並か少ない確率ともに 40% である。
- ・気温は、1 週目が高い確率 60%，2 週目は平年並か高い確率ともに 40% である。

◆1か月の気温、降水量、日照時間の確率(%)



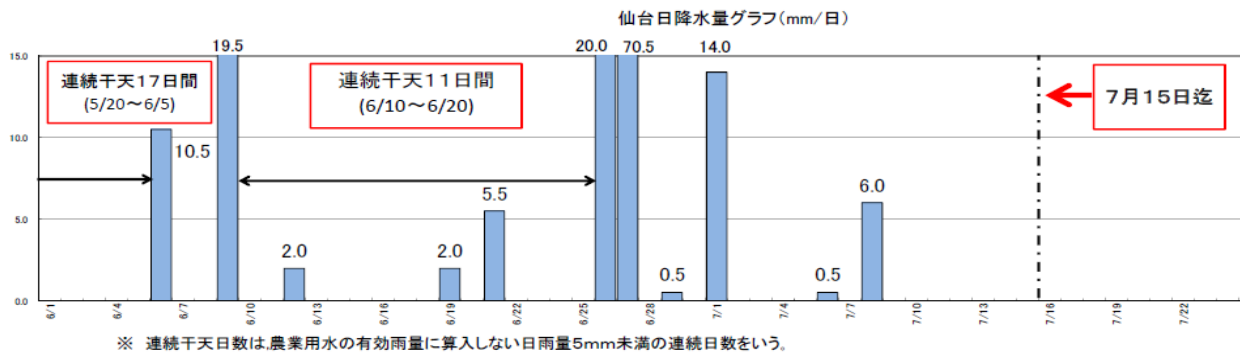
◆週別気温経過の確率(%)



2 県内の用水状況

農村振興課 H27. 7. 17 発表

(1) 6, 7月の降水と干天期間



(2) 県内のダムとため池の貯水状況 (7月15日現在)

- ・ 県内 17 箇所のダムの貯水率は 55.6% で平年の有効貯水量と比べると 86.7% である。
- ・ 県内にため池は 6,000 箇所ほどあり、主要なため池の貯水率は 54.2% となっている。
- ・ 過去の夏場の渇水年の例は、平成 6 年と 9 年であり、各地で利水調整や番水制、応急ポンプの設置等が行われた。
- ・ 平成 6 年の連続干天期間は 49 日間 (7/2~8/19) で、9 年は 34 日間 (7/17~8/19) であった。

3 生育状況

幼穂形成期		
本年	前年値	平年値
7月7日	7月7日	7月10日

【移植栽培】7月21日現在

- ・ 県全体の平均値は、草丈が 70.4 cm(平年比 97%)、 m^2 当茎数が 515 本(平年比 101%)、主稈葉数が 12.2 枚(+0.4)であった。
- ・ 7月21日現在、県内生育調査圃の幼穂長が 93mm (+62mm) となっており、依然として生育は進んでおり、現在では穂ばら期~出穂に入っている。
- ・ 出穂期は、当初予想よりさらに進み南部平坦で 7月26日、北部平坦で 7月29日頃と見込まれる。

県全体&品種別生育状況(県生育調査圃)

県全体	草 丈			茎 数			葉 数			葉緑素計(GM)値			幼穂長(mm)		
	本年	前年比	平年比	本年	前年比	平年比	本年	前年差	平年差	本年	前年差	平年差	本年	前年差	平年差
	(cm)	(%)	(%)	(本/ m^2)	(%)	(%)	(枚)	(枚)	(枚)						
	70.4	98	97	515	96	101	12.2	0.3	0.4	33.2	▲ 1.8	▲ 0.7	93.5	53	62

品種別

品種別	草 丈			茎 数			葉 数			葉緑素計(GM)値			幼穂長(mm)		
	本 年 (cm)	前年比 (%)	平年比 (%)	本 年 (本/m ²)	前年比 (%)	平年比 (%)	本 年 (枚)	前年差 (枚)	平年差 (枚)	本 年	前年差	平年差	本 年	前年差	平年差
ひとめぼれ	71.4	100	99	505	97	102	12.3	0.4	0.5	33.8	▲ 1.5	▲ 0.1	100.6	56	70
ササニシキ	67.3	94	95	547	95	101	12.2	▲ 0.1	0.2	31.8	▲ 2.5	▲ 1.6	71.5	39	45
まなむすめ	70.9	94	90	503	91	99	12.1	▲ 0.1	0.1	32.3	▲ 2.4	▲ 3.3	98.0	63	53

ま
な
む
す
め



げ
ん
き
ま
る



【直播栽培】7月17日現在

- ・直播栽培については、草丈が60cm強、葉数は10～10.5枚程度となっており、移植に比較して1.5～2枚程度少ないが、順調な生育となっている。
- ・m²当茎数は、圃場により大きな差があり、650～700本/m²とやや過剰気味で、弱小分げつが多い。
- ・移植に比較して生育が遅れているため、葉色は濃くGMで30後半程度である。



石巻直播 7/17 (加^パ-)

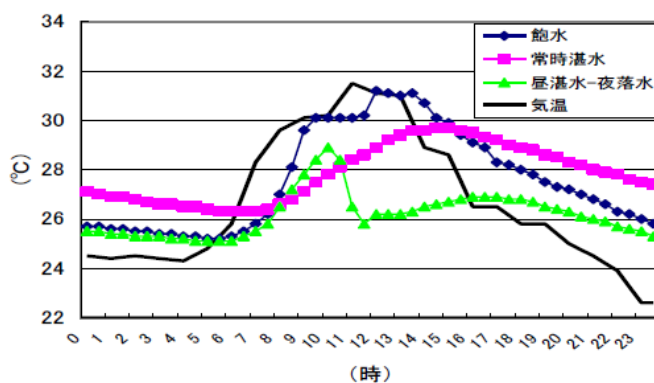


古試直播 7/21 (鉄コ)

4 今後の管理

(1) 水管理

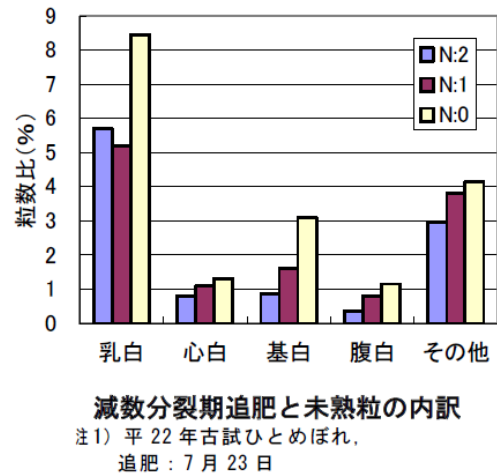
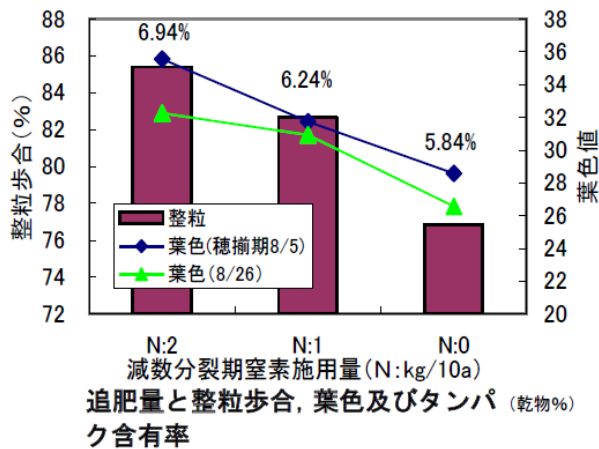
- ・高温傾向が続く天候予報であり、近々の降雨は見込めず、白未熟などの高温障害が懸念される。
- ・渇水状況下にあるが、穂の周辺温度を低下させるため「昼間深水」「夜間落水」を基本とする。
- ・開花期は、水を多く必要とするので、可能な限り湛水状態を保つようにする。
- ・山間部や直播栽培では、減数分裂期にあたるので生育ステージにあった水管理とする。



- ◆ 常時湛水では、夜間が高温に経過する。
 - ◆ 常時落水状態では、高温時は昼間が高くなりすぎる。
- ※風通りを良くし、「昼間深水」「夜間落水」が理想であるが、間断灌水が現実的である。

(2) 追肥

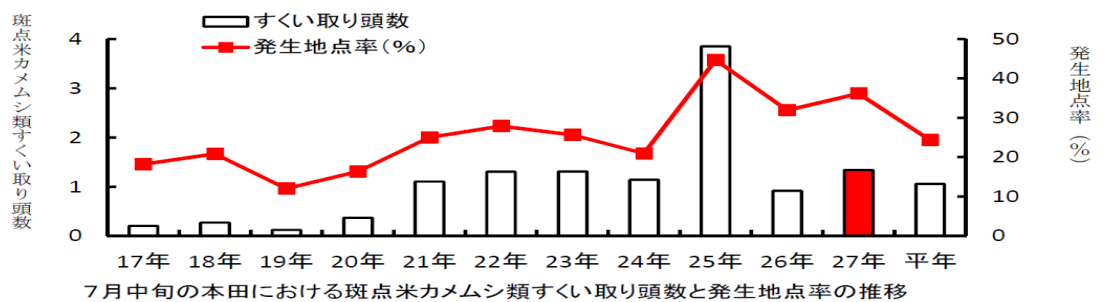
- ・高温で全体的に生育が進んでいるが、平坦部の一般移植栽培と比べて、山間部や直播等の生育ステージは遅れており、葉色は薄めとなっているので、白未熟粒の発生を防止するため適正範囲内で追肥を実施する。



(3) 病害虫防除 (宮城県病害虫防除所調査)

①斑点米カメムシ類

- ・すくい取り頭数は、平年よりやや多く、発生地点率も高かった。
- ・牧草地での頭数はやや少なかったが、発生地点率はやや多い。(やや老齢幼虫の比率が高い。)
- ・薬剤防除は、穂揃期とその7~10日後の2回が基本である。
- ・畦畔等の草刈は、出穂期のため、カメムシを水田内に追いやることになるため実施しない。



②コバネイナゴ

- ・すくい取り頭数は11.0頭(平年7.4頭)と平年より多く、発生地点率も83.0%(平年59.9%)で平年より高かった

